

## 「ラジーミチ - チェルノブィリの子供たちのために」 団体についての基本情報

- 社会団体「ラジーミチ」はミハイル・ゴルバチョフ政権時代（1987年）にブリャンスク州ノヴォズィプコフ市に生まれた。
- 団体結成の直接のきっかけになったのは、ノヴォズィプコフが放射能汚染地帯に入る結果をもたらしたチェルノブィリ原発事故だった。
- 最初の「ラジーミチ」のメンバーになったのは、将来の教育者になったノヴォズィプコフ師範学校の生徒たちで、彼らを一つの団体に結集させたのが彼らの教師であるパーヴェル・ヴドヴィチェンコ（当時 35 歳）だった。
- 1987年4月から団体では少年少女と青年との活動が、非営利団体のプログラム、プロジェクト、アクションなどへの彼らの積極的な参加を通して行われている。そのプログラムは「ボランティア」と呼ばれている。それは今も動いている。
- 最初の段階（80年代末－90年代初め）で実現された諸活動：
  - 村落の孤立した高齢者への支援
  - 寄宿学校の子供たちへの対策
  - 障害児の社会復帰の仕事
- 団体「ラジーミチ」はドイツの社会団体 Pro-Oste.V.（ゾーリンゲン）との緊密な連携で最も成功を収めた。
- 1992年8月、多年にわたるプロジェクト「文化間交流」の実施が始まった。我々のロシアの医師たちや障害児・ボランティアの仕事の専門家たちなどが毎年ヨーロッパ諸国で学び始め、ヨーロッパのボランティアたちが我々のプログラムの中で我々と協働しながら我々の経験に学ぶためにロシアにやって来るようになった。毎年最大 15 人の 17－20 歳のドイツのボランティアたちがキャンプにやって来、グループ労働を行い、子供たちにドイツの生活と伝統を紹介している。
- 非営利団体「ラジーミチ」の活動の最初の時期にロシアのチェルノブィリ地域の移住地帯の数百人の子供たちが外国で保養した。
- 1993年、社会団体「ラジーミチ」にコンピュータクラブが開設され、そこではコンピュータ技術に近づくことのできないノヴォズィプコフの最初の生徒たちが学んでいる。このプログラムは現在も動いている。それは家にコンピュータを持っていない生徒たちにとって重要である。コンピュータクラブの最初の指導者は当時 15 歳だった。
- 1993年、社会団体にボランティアとして集まった地元の医師たちのイニシアチブで小児脳性マヒの児童を医療で助ける治療室が開設された。その際、病気の児童との仕事で東洋の治療法の指圧が用いられた。毎年、ロシアの専門家たちはヨーロッパの同僚たちから学んでいる。今日、彼らの仕事はロシアや他の国々に知られている。毎年、小児脳性マヒの児童のリハビリと回復治療の治療室ではロシアの様々な地域や独立国家共同体の諸国からの最大 350－400 人の児童が治療を受けている。

●1994年、「ラジーミチ」は児童の外国への送り出しを一時的に中断することを提案した。これは費用がかかるし、プログラムに関わるのは少数の児童だった。我々はより費用のかからない案、ソ連時代から残り、放置されていた（古い）キャンプ地の一つを自分たちの力で修理することを提起した。こうして夏のキャンプ地「ノヴォキャンプ」（ブリャンスク州スラジ地区）を本拠地にしたチェルノブィリの児童の保養プログラムが動き始めた。毎年、そこでは、孤児、社会的に恵まれず困難をかかえた児童やその他のカテゴリーの児童を含んだ520-560人の児童が休養している。キャンプで恒例になったのは、若い画家班、健康生活班、合同のための国際班、国際的なコンピュータ班などである。

●1995年、社会団体に付属して、困難をかかえた児童の仕事をするセンターを設置する仕事が始まった。ソ連時代のロシアでは難病の児童や障害児を家から遠くにある特別な児童施設に入れることが特徴的だった。しばしばそれらは小さな村や小都市にあった。我々は時間をかけて、健康に大きな問題がある児童を両親がそのような寄宿学校から引き取り、家庭に留めるように説得した。その際、毎朝、我々はそのような児童を自分たちの団体に招き始め、そこで最初の年に児童は遊び、新しい集団に慣れていった。我々のボランティアや専門家たちが児童との仕事を学んでより成果を上げるように、我々はヴッペルタール市（ドイツ）の特殊学校と協力に関する契約を結んだ。毎年、ドイツの専門教育者たちがロシアに来、一方、ロシアの専門家たちが1週間の予定でドイツに行っている。これによって児童に基本的な生活習慣を教えることができるようになった。成果をもたらした仕事によって我々は市当局に困難をかかえた児童のための保育園を開設する方向に向けさせた。今日、我が市には小さな特殊学校が開かれ、そこに我々は国立の特殊学校が受け付けない最も困難な児童を連れていく。これは困難だが、必要な仕事である。

●1998年、人道的な10年プログラム「チェルノブィリのロシア人児童のために」を実施する仕事が始まった。ロシアの歴史で初めてチェルノブィリの社会団体は契約を結び、それに基づいて地域の指導者たちはボランティアと専門家たちの力で社会プログラムを実施するためにかつての保育園の大きな建物をそれに引き渡した。この建物で今も地域の児童とその他の住民たちのための大部分のプログラムが実施されている。

●チェルノブィリ地域の大きな問題の一つは、教育を受けた人たちが汚染のない地域へ常流れていくことである。これに関連して1998年にノヴォヰプコフで、NGO「ラジーミチ」に付属してブリャンスク国立技術大学の代表部が創設される契約が調印された。これは我々が、ロシア・チェルノブィリ地帯の都市の企業のために技師を養成する精力的な教育活動を実施することを可能にした。これと並行して高学年の生徒たちを国内の他の大学に入学させる養成が行われた。5年後、2003年から代表部は独立して活動している（ノヴォヰプコフ市当局の支援の下で）。

●その他の諸問題の中にチェルノブィリ地域に住んでいる子供たちの孤立と自己隔離の問題がある。この過程を克服するために我々のボランティアの一人アンドレイ・タロヴェルコは、2000年に勝ち負けのない児童絵画の国際コンクールのアイデアに思い至った。こう

してコンクール「私は自分の世界を描き、それをあなたに贈る」が登場し、その仕事には現在も世界の様々な国々、ブルガリア、ベラルーシ、ハンガリー、ルーマニア、イタリア、インド、インドネシア、セルビア、ボルネイ・サルタン国、アメリカ、中国、ウクライナや他の国々から1年に訳500-600人が参加している。それぞれの参加者は住んでいる国とは関係なく証書とこのコンクールへの参加を記念する小さなお土産を受け取る。これによってチェルノブイリ地帯、大小の国から来たそれぞれの参加者は他の子供たちと平等だと感じ、世界から注目されるように思う。

●2001-2002年、障害児と健全な児童のためのプロジェクト「子供劇場 演劇活動における障害児の教育と社会復帰」が実施される。

●2001年6月、チェルノブイリ地域社会団体「ラジーミチーチェルノブイリの子供たちのために」の指導者パーヴェル・ヴドヴィチェンコは、非営利団体のリーダーたちとロシア大統領プーチンとの最初の会見の参加者となった。

●2001年8月、社会団体「ラジーミチ」の活動は、チェルノブイリ原発事故の結果によって被災したベラルーシ、ロシア、ウクライナ地域における調査の際、国連調査団（団長パトリック・グレイ、英国）から高い評価を得た。国連発展計画と、汚染地帯で活動しているチェルノブイリ非営利団体「ラジーミチ」との協力の第1段階が始まった。

●2002-2007年、NGOは現代人文アカデミー（モスクワ）の代表機関の仕事を行い、そのことで数百人の青年が町から出て行かなくても教育を受けることができるようにした。2007年から大学の代表機関はNGO「ラジーミチ」の援助を受けずに独立して活動している。

●2003年5月、ヨーロッパとCISの国連発展計画のコーディネーター、カルマン・ミジェイ氏、ロシア国連公使S.ワシーリエフ氏らからなる国連代表団が団体（「新キャンプ」プログラム）を訪問した。非営利団体「ラジーミチ」と学生ボランティアの仕事に高い評価が与えられた。国連がチェルノブイリ地域社会団体「ラジーミチーチェルノブイリの子供たちのために」の経験をヨーロッパ諸国に普及させる意図が表明された。

●2003年4月、NGO「ラジーミチーチェルノブイリの子供たちのために」の代表機関がノヴォズィプコフから200キロのブリャンスクに開設された。最大60人のボランティアが毎年この町で働いている。彼らは保育園で子供たちとゲームや祭りを組織し、夏のキャンプ「新キャンプ」の仕事に向けてボランティアを養成する。夏にはボランティアは子供たちとの仕事のためにキャンプに行く。

●2003年から2005年までに社会団体「ラジーミチ」のコンピュータ担当者たちは国連の援助を得てロシアのチェルノブイリ地域に10のティーンエイジャー・青年コンピュータクラブからなるネットを創設した。これは、小さな村に住み、インターネットで世界に関する自分の知識を広げ、外国語を学び、学校で勉強している学科の報告を準備する生徒たちにとってとても重要である。我々は彼らのためにコンクールを行い、隣国で友達を見つけることを手伝い、夏のキャンプ「新キャンプ」での国際コンピュータ班に結集できるよう

にする。

●2003年12月から2008年12月まで。社会団体「ラジーミチ」に付属して、女性が責任ある母親になるように養成し、新生児の世話を熟達することを目的とする「将来の母クラブ」が活動する。

●2004年2月、国連事務局次長で国連開発計画マネージャーのマーク・マロック・ブラウンが国連機関と非営利団体「ラジーミチ」とのさらなる協力発展と強化を目的として団体を訪問した。国連開発計画のリーダーはノヴォズィプコフの活動家たちの仕事を高く評価することを認め、チェルノブイリ地域社会団体「ラジーミチ」のイニシアチブの支持を表明した。

●2004年、我々はプログラム「甲状腺調査」の実施を始めた。チェルノブイリ地域社会団体「ラジーミチ」を基盤にして甲状腺の超音波調査室が創設された。超音波調査の計測計はGEのドイツ支社が調達した。毎年1500件以上の調査が行われ、調査室を訪れる人たちの間に甲状腺の病気の諸問題と治療法に関する情報資料が伝えられている。2007年から「新キャンプ」で休息している子供たちの甲状腺調査が行われている。多くの子供たちは初めて調査される。約1万人が調査された。彼らの70%に甲状腺の状態に様々な弱化が見られる。

●2004年8月、「ブリャンスク州チェルノブイリ地域発展のための情報通信テクノロジー」プロジェクト実施の枠での「新キャンプ」の最初の国際コンピュータ班が実現した。毎年キャンプのコンピュータ班では120人から140人の子供たちがコンピュータ技術についての基礎的な知識を得たり、インターネット・ホームページの作り方を習ったり、デジタル写真を使ったり、コンピュータ・プログラムを使って写真を仕上げたり、多くのその他のことをする。優秀なコンピュータ熟達者たちの隣で、今日のロシアに沢山ある貧しい家庭の保育園児童も勉強する。

●2004年から現在まで NGO「ラジーミチ」では毎年、国際会議や、学生たち、社会団体のリーダーたち、ボランティア運動のリーダーたちのために短期課程を教えるセミナーが行われ始めた。これらの行事の主要な目的になったのは、我々の仕事の経験をロシアの諸地域に普及させることだった。我々はロシアの小都市に社会団体をどのように作り出すことができるかを教えている。若いリーダーたちにボランティアとの仕事の方法を教えている。どのようによいアイデアを見つけるか、どのようにボランティアから部隊を集めるか、どのように計画を立て、それを実施するのかを教えている。我々は、どのように役人たちの反対を克服するのか、どのように資金をみつけるのか、どのように財政報告を準備するのか、その他多くのことを教えている。

●2006年、プロジェクト「社会団体『ラジーミチ』付属チェルノブイリ博物館」の実施が始まった。この決定の理由は二つあった。第一に、地域には1986年のチェルノブイリ事故について何も知らない若い世代が育った。彼らは、キノコ、森のベリー、獣の肉や野鳥、魚、村の牛の乳の摂取がもつ危険性を理解していない。だから、作られた博物館に付属し

た情報センターはチェルノブイリ地域で安全に生活する方法の学習について町の生徒たちに広く説明する仕事を始めた。

●博物館創設の第 2 の理由になったのは、チェルノブイリ事故の結果は大したことがないと公式に表明したチェルノブイリの国際会議（2006 年、ウィーン、オーストリア）の声明に対する我々の反応だった。我々は我々の NGO の来客たちに、あるいはマスコミを通じて、IAEA やその他の原発建設に利害を持った団体の、原子核に汚染された地域での状況が安全であるという立場への我々の不同意について語ることに決めた。2006 年 4 月は「ラジーミチ」のチェルノブイリ博物館の仕事始めであり、チェルノブイリ原発事故 20 年に捧げられた最初のチェルノブイリの展示「チェルノブイリー 20 年後」の始まりだった。現在、博物館の展示は定期的に更新され、チェルノブイリのテーマの情報収集が行われている。市民、市の学校と中等特殊教育施設の生徒たちのために見学旅行が行われ、被曝、健康な生活の仕方、精神に作用する物質の使用予防のテーマで情報資料が準備され、普及されている。

●2006 年 3-4 月、学校の生徒たちと教師たち、ロシア、ベラルーシとウクライナのコンピュータクラブが参加して、国際コンピュータ・フェスティバルが開かれる。

●2007 年 1 月、ボランティアとの仕事のプログラムの新しい段階、プロジェクト「チェルノブイリ原発事故の結果、被災したブリャンスク州の『ラジーミチ』ボランティア運動の支援センター」の実施の開始、プロジェクトはロシア連邦大統領府によって支援される。

●2007 年、「新キャンプ」の仕事は国連開発計画とロシアのテニス選手マリヤ・シャラーポヴァ基金によって支援される。資金は 20 人収容の家と運動場の建設に充てられる。

●2008 年、EC-ロシア協力プログラムの支援で「青年センター」の設立が始まった。このプロジェクト実施の目的は、ロシアのチェルノブイリ地域の社会的に保護されていない児童やティーンエイジャーの生活状況の改善、彼らに自分の生活を自分自身で決めることができるようにすること、自己を助けることの学習である。プロジェクトの枠内で子供たちの場所に子供たちとティーンエイジャーのための出会いと相談室設立に場所が充てられた。青年センターは教育、健康な生活法、有害な習慣の予防、障害児と社会的に保護されていない家庭の子供たちの社会復帰の領域で様々なプログラムを提起している。プロジェクトの実施はいままで続いている。

●今日、ブリャンスク州チェルノブイリ地域社会団体は放射能で被災した地域での仕事の最も大きな経験を有している。まだソヴィエト時代に生まれたので、この青年組織は国の援助によってではなく、しばしば役人たちの意志に反して活動してきた。それは国が様々な理由で無視してきた諸問題を見出すことを学び、諸問題の速やかで高度な解決の例を示しながら、この領域に割り込んだ。大部分の場合、団体「ラジーミチ」によって実施されたプログラムは何年も資金がまったくなかったけれども、それは若いボランティアが課題を解決する妨げにならなかった。

●NGO「ラジーミチ」は外国からの私心のない援助によって成立した。それは、いくつかの他のドイツ、スイス、オーストラリアや他の NGO の一定の発展段階での支援があったも

のの、ドイツの NGO Pro-Oste V (ゾーリンゲン、ドイツ) の組織的、方法論的、物理的、財政的支援だった。

●今日、我々は強いと同時に弱い。

●我々の力は我々の仕事と結果にある。数千人の人たちが毎年、我々の社会団体の領域で援助を受けている。NGO の数百人のリーダーたちが毎年、知識を受け取り、非営利セクターで仕事の経験を得ている。24 年間、存在し、活発に活動したことによって、我々は、非営利組織が競争地域の社会生活に重要な寄与をすることができることを、証明している。

●我々の弱さは安定した財政がないことにある。だが、これについては別に語らねばならぬ。